

HAND IN HAND

はんど・いん・はんど

〔ゆとりある生活って何?〕

■山梨の過疎の村に住む中村さんを紹介したところ、大きな反響がありました。彼女の生き方に共鳴し、世間の物さしにとらわれない生き方をしたいと考えた人が多いようでした。中村さんから送られてきたハーブティを愉しみながら、私もゆとりのある生活を心がけたいと思います。

■でも、ゆとりって難しいですね。最近、バブル経済の崩壊による不景気が、ハンドの会員を直撃している話をよく耳にします。たとえばKさん。残業が全くなって、月に5万円もの減収とか。多くない収入の中の5万円は痛い。そこで転職も考えたけれど、50代では悪くなりこそすれ良くはならない。しかたが無いから、夜間のアルバイト（皿洗いとかな）を始めたといいます。同じく残業のなくなったAさん。「子どもは喜んでいるけれど、一昨年は毎晩、10時11時の帰宅でしたから。でも家計は火の車。購読料が払えないので退会します」と手紙をくれました。

■残業があって初めて成り立つ暮らしって、本当におかしいですね。離婚女性だけでなく、日本のサラリーマン全体が、基本給だけでは生活できない。だから妻も「残業してもらわないとやっていけないわ」と夫の早い帰宅を喜ばない。

■時短だの週休2日だの残業拒否がいいだのと言ったって、それには経済の安定がまず必要です。浪費をやめ、何が自分たちの生活に必要なかを見直すことが大事であり必要だとも思うけれど、ぎりぎりの生活をしている人たちには厳しい時代となりそう。別居や離婚を決めた時と同じように自分の生き方に優先順位をつけて、しっかり生活を見直し、かつ仕事や人生への情熱を失わず、初心忘るべからずの誠意と努力で、何とか乗り切りたいです。 (円より子)

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。新たな旅立ちをした女たちはいま手を取りあい、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。ハンド・イン・ハンドは生きやすい社会をめざし、支えあう女たちの流木である。

第135号 200円 禁無断転載

【発行日】1992年7月1日

【発行所】現代家族問題研究所
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-23-504
〒151 電話03(3402)7354、4385

【発行・編集人】円 より子

【スタッフ】雪野美子、小林千佳子

【印刷】(株)日出島

135



楽しい孤独への助走① の場合

定年前にやめて正解だった。
—人生に悔いを残さないために—

会社を辞めたい。誰もが一度や二度、この誘惑にかられることだろう。しかし、どうやって食べていくのだ。親もいれば子どももある。結局、人生のしがらみを考えると踏ん切りがつかない。現状維持のままで勤め続けることになる。達子の場合、働くということとは当り前のことだった。女であろうが男であろうが、働けるものは自分の食いぶちくらい稼ぐのが当然と思っていたから、結婚後もずっと働き続けてきた。

考え方や生きる目標にずれが出てきて、修正のめどが全くつかなくなり、離婚という結論を出した時、働き続けてきたことが大きな支えとなった。

しかし達子は50前後から人一倍、定年を待っていた。そのための生活のめども考えていた。

20歳の時に入社して以来、勤め続けている会社である。いやな仕事ではなかったし人間関係もまずくない。しかし我慢、我慢と自分に言い聞かせなくてはならないことは何度もあった。若い時はその我慢もたいしたことではなかったが、中年を過ぎた頃から社内の人化が一層進んで、新たに習得しな

ければならないことが大幅に増えた。それは肉体的にも精神的にもかなりの緊張と疲労を達子にもたらしことになった。

「定年まで後2年と4カ月15日なの」

かなり前のことだが、定年について何人かで話し合っていた時、達子が正確に定年までの日数を口にしたので驚いたことがある。毎日、カウントダウンしているのだった。「早くやめたいの。やりたいことが沢山あるのよ」

その何年何カ月何日後の暮らしをそれは楽しみにしていたようだ。しかし、達子のカウントダウンの数字が、ある日、1095日も増加するというショッキングな事態が発生する。

つまり定年延長という社会的時流に乗り、達子の勤めていた会社も57歳から60歳へと3年も定年が延びてしまったのだ。

単に延びただけではない。昭和9年の誕生まれである達子の場合には56歳から所得が2割カットになる。その代わり60歳までいられるという条件だった。2割カットとなると年間130万くらい減俸となる。これは痛い。



定年は57歳と決まっていた57歳の誕生日までの日数を指折り数えて待っていた達子は悩んだ。

56歳となった時、現実には所得はカットされた。ならば働き続けようか。達子はまだ迷っていた。

そんな時、同居していた母に狭心症の発作が出た。大事には至らなかったが無理をするとまた発作の出る危険性がある。

結婚中からずっと同居していても家事の多くを負担してきてくれた母を、達子はいち歳よりも若く、元氣だと思いついてみすぎた。しかしもう80を越えている。昔気質の人で、「疲れた」などと言わない。いつも姿勢を正し、きりっとしている。身ぎれいである。だからまわりは安心してしまう。

その母が訴えたのである。年の

暮れのことだった。

「勤め、やめてくれないかしら」
病気のせいで母も気弱になって
いたのだろう。

「わかったわ」

達子は即座に答えた。

毎日、会社から戻って「ただいま」と声をかける。「はい」という母の元気な声が聞こえるまで一日中、達子も不安だった。

万が一、留守中に母が帰らぬ人になったら——そう思うと一生、悔いが残ると思った。一年分の減俸は損失だが、以前に考えていた通り57歳の誕生日が来たら辞めよう。翌年の1月、出社するとすぐ、その旨を会社に伝えた。「理由は母の看病をしたいということだ」

会社はなかなか交代要員を見つけれなかった。そこで退社までの半年間、達子は最後の最後まで仕事をあたふたと大車輪でするはめとなった。

「有給休暇が40日もあったんだけど、結局、消化できなかったの。残業ばかりの日が続いたわ。でもね、それだけ私でなきゃできない仕事如山ほどあるんだって思えて、逆に会社に感謝する気持ちを持った。みなさん、ありがとうって」

辞める日まで仕事で残業して、会社の上司や同僚への挨拶は翌日になってしまった。

「会社に飼いの馴らされてしまったというか、いやと言えない習性がある身についているんだなとも思ったけど」

そう達子は笑う。

しかし彼女は、その習性を破って定年を自ら選び取った。37年という長い会社生活にピリオドを打ったのである。

★☆☆

3年前、ハンド・イン・ハンドの読者を対象に行った「老後のアンケート」によると、現在の仕事も継承意思を「老後（定年・退職後）も現在の仕事（職種）を続けたいと思いますか」という形で聞いたところ、①できるだけ長く続けたい——が27・5%でトップだった。

離婚した女性には、生活維持のためにできるだけ長く働くことが必要なのだ。つまり、子どもの教育費などにかかるものが多いからとても自分の老後資金まで蓄える余裕がない。

そのうえ年金も心もとない。ならば働いて日々の収入を得るしかない。そこで、できるだけ長く、元

気で働くつもりということになるのだろう。

達子の場合、結婚で仕事を辞めずに働き続けたから厚生年金も入る。子どもにかからない分、早くから自分のための預貯金もできる。

そのせいか、彼女の解答は①のできるだけ長く続けたいではなかった。②定年（退職）後は他の職種に変わり、70歳位まで働きたい（8・9%）でもなく③定年（退職）後は他の職種に変わり、60歳位まで働きたい（8・9%）でもない。はっきりと、④老後は仕事をしたくない（12・7%）を選んでる。⑤わからない（18・0%）⑥その他（9・2%）でもない。

そのためには仕事をしなくても生活していけるだけのめどをしっかりと自分で立てることも必要だった。

まず住居は確保できていた。結婚生活中に夫と共働きをして買ったマンションは、離婚時に売って夫55%、達子45%で分けた。それを頭金にして会社から借金をして買ったのが現在のマンションだ。その借金は、給与から引く形で57

家計簿内訳
(1992年5月現在)

〔収入〕

失業保険	約200,000円
厚生年金	17,8000円
計	約378,000円

(但し、失業保険は今年8月で切れ、代わりに退職金を個人年金にしたので、それが月10万ずつ入る)

〔支出〕

健康保険	21,000円
生命保険	16,000円
光熱費	25,000円
管理費	2,1000円
電話代	5,000円
食費(母と折半)	23,000円
教養娯楽	50,000円
交際費(外食含む)	40,000円
衣服費	3,0000円
交通費	10,000円
医薬品	5,000円
雑費	30,000円
計	276,000円

歳の定年前に返済できるように組んであった。

母親には年金があり、母親の医療費はほとんどが公費で賄える。

そこで、自分が80歳まで生きられるということを一応の目安として、稼がなくても暮らしていける道を達子は考えた。

在社中に給与から引かれていた財形年金が、60歳になると月々3・5万円ずつ出ることになっている。厚生年金は57歳、つまり会社を辞めた翌月から月々17・5万円ずつ入る。達子はさらに57歳から60歳までの3年間、国民年金に入ったので65歳からは厚生年金に加算される。

さて、1カ月の住居費以外の金額を捻出するためには、退職金約1600万円をどう運用するといいかを研究し、個人年金で58歳から月10万ずつ一生入ってくるシステムのものを選んだのである。

「つまり、長生きすればするほど得なシステムなの」と達子は楽しそうに笑う。

達子の家系は長寿家系であり、自分もよほどのことがない限り、長生きすると彼女は信じている。

「でも63歳に危機があると思う。交通事故とか、かなり痛い病

気になるみたい」

もう10年以上も、未来予知学すなわち占いの勉強を先生について本格的に続けてきた達子はそう言い切る。

「その時、私は死を見つめ、でも乗り切っていくはず。だから死についても勉強している」とも言う。

死は自分の死だけではない。まず、遠くないうちに母の死に出会うことになる。その覚悟はしている。達子は言う。

「気丈な人だと思っていたけれど、このところずいぶんおばあさんになったと感じることがあるの。でもね、まだ薄いピンクのマニキュアをきれいに付けているの。そうやっていっているうちは安心だけど。母もね、私がお化粧している間は大丈夫よ、というの」

★☆

会社を辞めて、達子の生活はかなり変わった。

以前から夜型生活者で不規則な生活だった。午前3時4時まで深夜映画や好きなビデオを観る癖があった。しかし勤めがあるから朝7時に起きる。慢性の睡眠不足と戦う毎日だった。

「だって残業がしょっちゅうあつ

て、家にたどりついて食事が終わると寝るなんて生活じゃ味気ない。

お風呂に入って、ちょっとのんびりして、映画でもと思うと、どうしても深夜になってしまうのよね」

会社を辞めて、朝は10時まで寝ていられるようになった。

退職者の特権であろうか。

母と達子の生活は、互いに干渉しあわないリズムができていく。

母は8時には起き、チンチラペルシャ猫のピー太と白姫を外に出してやる。

家の掃除は達子、食事の支度は母とだいたい決まっている。洗濯はそれぞれ。

母との生活を大事にする、それが達子の生活で最優先している。だから、無理しなければ元気な母だが、目医者や歯医者などの通院がしばしばあるので、そのつきそいは必ずする。階段の上りおりが母の体にきついたので電車はほとんど使えないから、バスやタクシーで行く。意外に時間がかかる。しかしそれが達子には楽しい。

通院の帰りには、おいしい店に寄って2人で食事をする。母が疲れてなければ買い物にも行く。そうした日以外は、それぞれ好きな

ことをしているので、意外に2人で食事することは少ない。暮らしの時間がずれているからだ。

それに、2人ともに一人一人でも過ぐすことが楽だという性分だ。

リビングダイニングの部屋以外に、それぞれ独立した部屋を持ち、そこはそれぞれテレビがある。書き物机がある。テレビはだから好きなものを別々に見る。

エジプト生まれ、ギリシャ育ちの達子と、長年外国で暮らした母だからだろうか。日本式母娘の関係とは一味も二味も違うのである。

達子は、ようやく退職後の年金や保険の手続きなどもすべて終わり、生活が落ち着いたところである。最近、健康のため兼ねて、毎週水泳を始めた。

海外旅行もするつもりである。商社に勤め英語を使って仕事をしていたが、ギリシャから子どもの時に帰国して以来、海外には行っていない。

まず今年はアメリカに行く予定だ。そして来春は、自分の生まれ国、エジプトに行きたいと計画している。

65歳になったら、生命保険が満期になり、かなりの額が入る。こ

れは、何か大きな楽しみに使うつもりである。

占いは、今すぐでも占い者として立てると言われているのだが、今は動いている時にできなかったこと（母への親孝行も含めて）を十分にやりたいと思う。

達子は、私たちの研究所の「離婚110番」で初期の頃から電話相談員をつとめている。この相談員はボランティアで、交通費も持ち出しの仕事であり、さらに研究会に出て、心理学的アプローチのカウンセリングの勉強を続ける必要がある。

西洋の心理学と、そして平行して勉強してきた四柱推命、気学、姓名判断・ホロスコープ。

達子は、人の心をのぞき、未来を予知する、そういうことに深く心惹かれていく。

時間をたっぷりと自分のために使えるようになった今、再び、未来予知と人の心にのめりこんでいきそうだ。きつと近いうちに、占い者として活躍する達子の姿を見られそうな気がする。

（文責・円より子）

// 老後の経済計画 //

47歳から始める場合を考える



■10年計画で

さん（57歳）は私などから見ればすっかり老後準備ができていると感心したのですが、それでも「10年前からやっておくべきだった」と言いました。

うーん、10年前というと47歳。いえ、彼女が本を買って研究したのは55歳の頃ですから、45歳からですか。なんと、では私は計画を立てる適齢期ではありませんか。

私が入っているのは掛け捨ての生命保険と国民年金だけ。となると、国民年金の支給は65歳からで、それも月に5万少々の受取額ですから、とても鈴木さんのように57歳から働かず優雅にというわけにはいきません。

「80歳まで働くわ」と今は思っているけど、病気になるかもしれない。東京の会合で話していたら、私より若い人達が「そろそろ老後のことも考えなきゃ、どんな年金に入っておけばいいのか興味がある」と言うのです。みんな賢いですね。

それなら、調べてみよう、というわけで、47歳、ちょうど日本女性の平均的ライフサイクルでは末っ子が高校を卒業する年齢からの、一人暮らしへの助走を考えてみました。

■貯蓄と保障を兼ねる

子どもに残すことは考えず、元気に働きながら老後の貯蓄をし、その間、病気の時のための保障を得たい。そういう場合は「せいめい共済」（事故死亡250万、病気死亡150万の保障があり、76万8100円を一時払いすると、5年後、100万円になります）と、医療保障（月の掛金2610円で、入院日額5000円が保障）を併用するといよいようです。

さて老後の年金ですが、公的年金の不足を補い、長生きしても年金がストップしない「ねんきん共済」ですと、基本年金1口12万で60歳支給開始ですと、60歳前半の年額13万8000円、後半で17万2500円、70台で20万7000円。このケースで月々の掛金は1万2700円。これは6口まで加入できますが、掛金も多くなる。ま、ケースバイケースで思案のしどころ。5年毎のせいめい共済の満期金を損金にあてる方法もあります。

以上はいずれも全労済のもので、今、ハンドの団体加入も考えているので、次回、詳しくお伝えします。自分の老後計画診断をしてほしい人は、手紙をお寄せ下さい。



第76回

大阪府

【家族構成】

私 33歳(会社員)

長男 7歳(小学2年)

次男 4歳(保育園児)

【住居】

3LDKの賃貸マンション

今年に入ってやっと別居実現。色々な面でまだまだ不安定な状態ですが、「明るく楽しく積極的に。よく働きよく学びよく遊ぶ」をモットーに頑張っています。

今現在の悩みは家賃が高いことと、離婚でなく別居中のため保育料が減免扱いにならないことくらいです。でもボーナス(年2回)が恵まれているので毎月、赤字も出さずクリアできています。

■給与は税・社内費用等を引いた額です。この中からさらに社内預金月4万5000円を天引きしてありますから実際の手取りは23万

家計簿内訳 (1992年3月19日~4月19日)

【収入】	
給料(手取り、扶養家族手当含む)	280,000円
養育費(振り込み支払い)	100,000円
計	380,000円
【支出】	
家賃(以前から住んでいたマンション)	109,750円
食費	480,00円
水道・光熱・電話・NHK年払い(すべて郵便局引き落とし)	21,500円
衣服	22,000円
保育料(自分の所得税のみで算出)	29,800円
教育費(長男の公文教室、スイミングスクール、給食費)	21,150円
教養・娯楽(新聞、書籍、文房具、映画、人形劇、通信教育の分割払い)	20,000円
交際費(お見舞い、お祝い、お饞別各1回。友人との喫茶食事代含む)	13,500円
保険衛生・備品(日用雑貨、薬、医者代)	11,800円
通信・交通費(ハガキ、切手、駐輪場代金1回100円)	3,000円
貯金・保険(社内預金、年金・終身・子ども保険各1口)	75,000円
ネコのエサ他(2匹。エサ、トイレの砂は安い時に買う)	4,500円
計	380,000円

50000円ということになります。短大卒業後に就職した会社に勤め続けていたので、経済的には比較的安定しています。ボーナスが年2回(合計6カ月分位出る)ので助かっています。

■養育費は口約束できっちりしたものではありませんが、給与天引きでもらっていますから今のところ毎月支払われています。

■マンションの家賃が高いとはいえ、この広さでこの額はこの地域では安い方。今より狭いところへ行くのも気が進まないのです、当面はここに住もうと思っています。

■お金はあると使う方なので私はボーナスでも何でももらおうと預けてしまいます。そして例えば旅行するときには、定期預金を担保に借金して行くのです。

■食費はこの月は外食無しのためやや少なめ。自分の昼食はなるべくお弁当を作っています。

■衣服はバーゲンで子ども靴2足と自分の洋服1着、それにクリーニング代です。衣服をはじめ大きな買い物はボーナス前後に計画するのですが、バーゲンがあるといいついて買ってしまう。本来ショッピング大好き人間なので……。

■お金はあると使う方なので私はボーナスでも何でももらおうと預けてしまいます。そして例えば旅行するときには、定期預金を担保に借金して行くのです。

■お金はあると使う方なので私はボーナスでも何でももらおうと預けてしまいます。そして例えば旅行するときには、定期預金を担保に借金して行くのです。

貯金額は「けち」でなくうまくやりくりをしてもっと増やしたいと頭をひねっているのですが、まだまだムダが多くしっかり管理しなければと反省中です。

自分への投資、子どもの教育にはできるだけことをしたいので、惜しまず出費しています。秋から子ども2人に英語を習わせる予定です。私自身も英検の準1級と1級を目指して勉強中です。

また楽しむことにも積極的に投資します。旅行は娯楽であり教養であると考えるに1、2回遠近間わず出掛けます。昨年・一昨年はハワイへ。今年は夏に東京へ行く予定です。もちろん普段はあまりお金をかけないようにします。お友達と誘いあってお弁当持参で近くの万博公園や緑地公園へピクニックに出掛けたり、図書館等の公共機関・施設が主催する無料の映画上映や人形劇等を利用してチップに楽しみます。

決して贅沢に暮らすつもりはありません。でも食べる物、着る物遊びの部分もやる時はやるよ!!という気持ちを持ってやっていくつもりです。プライドは無くさず人生明るくです。

MIYAGI



第3回ハンドマップ

東北地区編

気兼ねなく子どもの送り迎えをしたくて
会社設立に踏み切った

連絡先

- 月曜～金曜、9時～18時
- 土・日曜と平日の朝と夜
- 商品オーダーに限ってはフリーダイヤル0120-417355へ

現在、シャンプーや化粧品、洗剤等の卸、小売会社「」を経営しています。「石油を使わず、海川を汚さない製法を」をモットーに自らが厳選した商品だけを扱っている会社です。これらの商品に興味のある方、販売をしてみたい方はぜひご連絡下さい。

私は58年に2歳弱の長男を連れて離婚。短大時代を過ごした仙台に母を呼び寄せ（父は以前に他界）新生活をスタートさせました。

会社創業のきっかけは、現在私たちが扱っているシャンプーの販売会社に就職したところに……。実は私はすごい敏感肌なのですが、その会社の商品はそんな私にもびつたりとても良い物でした。だから商品は好きになったのですが、とにかく売り方がノルマ第一主義でよくなかった。

「せっかくなのでいい商品なのだから売りたい」という気持ちもありました。知人にはたいいてい「大変だからやめたら」と言われましたが「失敗したらまたお勤めすればいいや」という気持ちで事業開始。母の蓄えを生活費として食い潰させてもらいながらのスタートでした。社員は母と私と友人の3人。最初の3カ月はほとんど無給の自転車操業でしたが1年を終えると赤字。そこで税理士さんの薦めもあって1年後の64年4月に株式会社に登記。現在は年間売り上げが約3千4千万弱というところまで。



▲今年発売したプライベートブランドの基礎化粧品「Yours」シリーズ。価格はスクラブウォッシング、スキンローション、ミルクローションが各3200円。スキンオイルが3800円。(いずれも税抜き価格)。

▲主商品「RONA アミノ酸シャンプー」。砂糖きびやヤシ油を原料とした天然アミノ酸シャンプーでリンスは不要。弱酸性で顔や体まで洗える。廃水中の成分は分解されるので汚染軽減にもなる。価格は300ml入りで1600円。ちなみにボディブラシはいずれも白馬毛100%使用商品。価格はフェイス1200円、ボディ2000～3500円(いずれも税抜き価格)。商品についての詳細は直接問い合わせを。

取扱い商品は最初はシャンプーだけでしたが、お客様の「あれはないの? これがほしいわ」というリクエストに答えていくうち、ブーアール茶、各種ボディブラシ、洗剤、化粧品等も扱うように。ただし扱う商品は①成分②PH度③使い心地④価格の4点を基準にじっくり時間をかけてテスト、検討したもののだけです。今年「Yours」というプライベートブランドの基礎化粧品も発売できました。

ハンドの持さんの中でこうした商品の販売で私たちを助けて下さる方がいらっちゃったらせびご連絡下さい。副収入を得るサイドワークになると思うのです。

★さんは仙台のハンド事務局で世話を下さっている方です。

ハンド・イン・ハンドは、みなさんがつくる雑誌です。

みなさんの日常考えていることや、生活の匂いが伝わって
くるような、そんなハンド・イン・ハンドでありたいと
思います。お便りをどんどんお寄せください。

■いろいろな日々を乗り越えて：

K・Y (48歳・茨城)

56年夏に倒産。債務のため離婚
届を出した方がいいという夫に従
って届出を出し、水戸の妹夫婦を

頼って3人の子どもと身を寄せま
した。その後、夫はかねてよりの

愛人(いた事は知らなかった)と
蒸発したことを知りショックでし

た。でも泣いてもいられず必死に
なって頑張りました。2年後、夫

から音信があり、月々送金が来る
ようになり現在に至っています。

夫は愛人だった人と入籍、子ど
もまでいたことがわかりました。

今3人の子どものうち2人は社
会人、1人は高校生となりました。

辛い思いもしましたが、再婚も
きつと地獄かもしれませんが、これ

で良かったと思います。同じ身の
上の方と連絡しあい、お付合いく

ださることを切に熱望します。

■なにしろ淋しいです

A・M (43歳・埼玉)
友達がいないので近くに住んで
いらっしやる方を紹介していただ

きたいと思います。悩み等を話し
合えたら少しは楽になると思いま
すのでよろしくお願いします。な
にしる淋しいです。

児童扶養手当は年収が増える
と支給されなくなるといふこと
で、一部停止とはどういうこと
ですか。今は全額支給されていま

す。もし停止になると私は困ります。
※編集部/YさんMさん、名前、連
絡先、紹介可なら、お知らせくだ
さい。

お便りください

■東京のお世話係に立候補！

(33歳・東京)

3月に入会したばかりの新人会
員です。よろしくお願いします。

離婚して6カ月。もうすぐ5歳
になる男児と2人で生活していま

す。4月18日のハンドの会にうっ
かり参加し忘れてしまい、今回は

是非と思っているのですが、こん
な子どもを連れて参加しても構い

ませんか？ たぶん私以外にも、小
さい子どもを連れて参加してい

のかどうか迷っている会員の方が
いらっしやると思います。もし構
わないのならこれから積極的に参
加してどんどん仲間を作ってい
たいと思っています。

それと、小さい子どもを連れて
ではありますがお世話係もさせて
いただけますか？ 人の世話は嫌

いではありませんので。またう
ちと同じように小さい子どものい

らっしやる方、もう子育てを終え
られた方、どなたでも結構です。ご
連絡ください。

■イキイキさんお便りを

(44歳・広島)

初めてお便りさせて頂きます。
私は昭和61年に、15才と16才の娘を

連れ離婚しました。原因は夫と愛
人の間に、突然子どもが生まれた

という事実から、離婚以外に方法
はないと考えました。

当時「離婚を考えたら読む本」
『ママ笑ってこらん』等、円氏の本

をあさるように読みました。子ど
もにとって一番いい方法で別れよ

うと決心した私は、成立の日まで
夫と話し合いを続け、決して感情

的しこりを残さずアメリカ式離婚
でいこうと合意しました。

一方的に非を認めた夫は、娘が
短大を卒業するまでの養育費を十
分に援助してくれました。

幸い2人の娘は社会人となり、私
はといえば、当時、国立病院の看

護婦として働いていましたが、ス
キャンダルと噂に耐えられず退職

し、現在は民間の救急病院で昼も
夜もなく働いています。私の周囲

には多くの離婚女性がいます。月
に何度か食事をしたりレクを楽し

んだりと友好を深めています。そ
の中から離婚女性の互助会を作り、

誰か病気で倒れるような事があ
れば、それは多数が看護婦のこと、

ローテーションを組んでつきそい、
助け合おうと今話し合っている
ところです。

離婚後6年も経つとすべてにゆ
とりが生まれ、何か他人の役に立

てればいいなと思っています。会
合にも参加したいと思っています

が、東京は少し遠くて、広島でこ
のような会合があればぜひ参加し

たいと思います。離婚後いきいき
と人生を歩いている方、男女を問
わずお手紙ください。

■広島のお世話係に立候補!

(?歳・広島)

5月より新しくハンド・イン・ハンドに入会させていただきました。現在、夫と別居して1年を迎えようとしています。

昨年の精神的・肉体的な狂乱状態の時期を過ぎ、今では親子共々別居生活をエンジョイするまでになりました。

将来のことや、過ぎ去ったことに固執しないで、『今』を充実させて生きていきたい。

これからはハンドの会を通じてまた新しい自分に出会えるのが楽しみです。

ところで、広島には事務局もしくはお世話係の方はいらっしゃらないのでしょうか。あればご連絡先をお知らせください。また広島にハンドの会自体が存在しないのなら私がそのお世話係に立候補します。いずれにしてもご連絡をお待ちしています。

※電話番号を編集部までお知らせ下さい。

■お手紙ください!

(43歳・大阪)

別居3年、またまた子どもの事で同居してしまいました。やはり別居中のあのすがすがしさ……

今、私は心が寒くてどうしようもありません。同じ家にあの男がいるというだけで帰宅拒否症に陥っています。子どもが結婚するまでと生きていますが、自分がガマンできない。だって最低あと8年は一緒にいなければなりません。やっぱり自分をだましましたができません。娘達があと2年待ってと言いますので、それを待って別れたいと思います。それまでホッとすることを仕事しながら探します。仕事の事や子どもの将来の事などに、今一番悩んでいます。

現在、夫の身の回りの事は一切していないのにこの男、気持ちの上で私を頼りに生きている。病氣しても水一杯持って来ない。会社(自営)の事、世間の事全て私にさせ、そしてマザコン、内弁慶。私はこの男の母ではない。娘達ももう少しもう少しと私にいわなければいけません。本当にホッとしたいのです。

私と同じ悩みをお持ちの方、またすでもう離婚されている方も私のお友達になってください。年齢問いません。どなたからでも必ずお返事書きます。

私は年齢43才。子どもは3人いますが、もう大きいので私一人に仕事は持っています。学はありませんが仕事は持っています。性格は明るい方でおしゃべりです。皆様からのお便り、無期限で首を長くしてお待ちいたします。

■北海道の連絡先にならなれます

(?歳・北海道)

毎回、ハンド・イン・ハンド、読んで勇気づけられています。

札幌の連絡先にTELしました。が今は使われていないというメッセージでした。札幌で何かグループでもあれば連絡を取りたいと思っています。ですが残念。自分、何もできませんが「連絡先」くらいにならなれると思います。私は現在、裁判中で、前途多難です。

■事務局便り

★大塚さんの商品スクラブ洗顔フォームを使ったら本当にGOOD! 使い心地を納得済みで自信をもって原稿を書きました。ちなみに雑誌や広告のアテにしない方がいいですよ。(雪野)

★先日、132号で紹介した飯野未希先生のカラーチェックを受けました。その結果、ふわふわのピンクが私には似合うとのこと。それ以来、外を歩いているとピンクがとっても気になります。そのうち大変身をするかも……。

(佐藤)

★あれもやりたい、これもしなくは、と思っているうちにもう一カ月。ああ! 時間と奥さんが欲しい。

(小林)

★子どもに離婚をどう説明するか、父と子の行き来をさせたほうがいいのか等々、子どものことではいろいろ悩みますよね。

家裁の調査官で、子どもの心を見つめてきて、ずっと私たちの研究所での勉強会にも関わって来てくれた遠藤さんを中心に、ロールプレイをしながら、子どもへの配慮を考えていく講座を企画しています。乞うご期待を。(円)



第140回ニコニコ離婚講座

7月25日(土)午後1時半～5時
飯田橋セントラルプラザ6Fで
(JR飯田橋駅下車隣り)。斎藤学
先生の「夫婦間のトラブルと子ど
もの心」と金住典子弁護士による
「離婚の法律と手続き」。参加費は
2000円。要予約。
☎03(3402)7354

会合のお知らせ

★事務局から

8月1日(土)午後6時～8時半。
冷蔵庫も入ったきれいな事務局で
(JR千駄ヶ谷駅下車4分)。ハン
ド136号の発送をしながらおし
ゃべり。(担当・)

★福岡の会合 (33歳)

思い切って集まってワイワイガヤ
ガヤやりましょう。7月19日(日)、
午後1時、博多筑紫口に集合(雨
天決行)。ショットヘア、Gパン姿、

現代家族問題研究所のグレーの封筒を持って私がお待ちしています。

★大阪のニコニコ離婚講座

7月と8月の離婚講座はお休みし
ます。次回は9月に開催予定です。
詳細は8月号でお知らせします。

★大阪の例会

7月11日(土)午後1時半～4時。
竹川法律事務所にて。
☎06(393)1331

竹川法律事務所(渡部)

お世話係

幼児のお母さんへ

ハンドの事務局は冷暖房完備の
明るい新しい事務所ですが、都心
の一等地のため、高家賃でも十畳
ほどの狭い部屋。そこにロッカー・
書類入れ、カウンター、大きな会
議机、事務机、コピー機がありま
す。打ちあわせ等にはいいのです
が、子どもさんが遊べるスペース
もなければ、おとなしくしてい
てもらわないと話ができません。
小さい子を連れていっていいか
という問いあわせがよくあり、心
苦しいのですが、事務局ではムリ
だと思えます。

そこで6月に新宿御苑ピクニッ
クなどを企画しました。事務局か
ら徒歩5分のところに、新宿御苑、
明治神宮、神宮外苑、児童遊園地
があり、代々木公園、青山子ども

の城も近いです。お天気が良けれ
ば、子どもたちを遊ばせながらお
しゃべりというのは楽しいもの。
ぜひ私が呼びかけ人になるという
人、事務局にご一報を。この会報
の入稿締め切りは前月の5日です。

★購読料について

現在つぎの3通りの方法をとらせ
ていただいています。

- ①1年間3600円(送料共)
- ②2年間まとめて前払いしてく
ださる方には、2年分、
7200円のところを
6000円に。
- ③出世払いもしくは免除

どうしても苦しい方は、いつでも
遠慮なく申し出てください。それ
ぞれ出費が多く大変でしょうが、
期限切れの通知の入った方、また
はこの折りにという方、いずれも
ご都合のよい方法でどうぞ。

(振込先)各地の郵便局にて
振込用紙は無料でもらえます。

東京14120542

ハンド・イン・ハンドの会